

令和2年度 学校(自己)評価書 高等学校

東海大学付属静岡翔洋高等学校・中等部

5～1は教員評価(5よい 4おおむねよい 3どちらともいえない 2やや不十分 1不十分)

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営(教頭)	年間教育目標の実践とその点検 現状における課題の解決および改善に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・学園・学校の教育方針を理解し、未曾有のコロナ禍の中でも教員一人ひとりが担当各部署において教育活動の充実に努めた。 ・「夢中って、無敵。」というスローガンの下、新型コロナ対策に苦心しながらも生徒募集活動を積極的に行い、中学生・保護者から高い評価を得られた。 ・教職員は生徒募集目標達成の為に保護者・地域との連携や情報発信に努めた。 ・非常勤講師の数も多く、教員間での意思疎通・連携が難しかった。 ・若手教員が増える中、本校としてのOJTが十分でなく、業務上で情報や意識の共有が不十分な点があった。 ・入学を希望する生徒の基本レベルが上がってきた中、生徒の満足する学校生活(授業・部活動・学校行事・施設等)を提供できるよう、さらに注力したい。 	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・学園・学校の教育方針を基本としつつ、各教員が担当部署の課題を主体的にとらえ直して、具体的な行動目標とし、日々の教育活動に熱意をもってあたる。 ・募集イベントでのアピールはもちろんのこと、本校生の頑張りや教育の特色を学校HPやSNS(FB・インスタ)で取り上げて、「見える化」する情報発信をさらに有効活用する。 ・効果の検証も含め、効率化・合理化する視点を持って業務にあたり、日々の授業や部活動などで生徒と接する時間をさらに豊かにする。 ・非常勤講師を含む教員間の情報共有に、ICTを教科・学年ベースで適切に活用する。 ・新着任教員を対象とした研修プログラムの充実を図り、業務上のトラブルを回避し、教員としての成長を促す。 ・教員は、授業準備を丁寧に行うことはもちろん、生徒の学校生活環境を広く見て課題意識を常に持つ。
学習指導(教務主任)	基礎学力の定着と授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定上重要な学園基礎学力定着度試験(4月)に向け、①朝学習、②模擬試験(過去問利用)を実施することにより、生徒の学習意識が高まっている。 ・各学年においても、生徒のやる気を促すために、模擬試験後は自己採点を行い、ランキング表を作成するなど工夫がみられる。試験に向けて生徒だけではなく、教員の意識の向上も見られ良い傾向にあると思われる。 ・ICT機器(共用iPadや教室プロジェクターなど)を活用した授業研究を進めている。 ・「チャイムと同時に授業開始」という基本を徹底し、生徒が授業に参加する姿勢は年度当初より向上し、落ち着いた雰囲気の中で積極的に学習に取り組むことができた。 ・大学進学のための基礎学力養成に工夫を凝らすと同時に、定期試験毎に上位50傑を掲示したり、成績優秀者を表彰することにより、生徒の学習意欲の向上を図ることが出来た。 	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・学力は、環境・習慣に大きく左右される。学校として支援・制御できる部分において教員が全力を尽くすと共に、「自学自習できる生徒」を育てるためにオンライン教材(Classi)を導入した。生徒が自ら考えてより良い方策を選びとって学ぶ流れ(雰囲気・システム)を、引き続き家庭とも協力して改善を目指す。 ・校内試験や外部テストを活用して生徒につまずき箇所を気づかせると共に、中等部・高校が連携してIT環境を利用し、「時間や空間に縛られない学び直しの機会」の有機な活用を目指す。 ・教員は、研究授業や相互授業参観、またオンライン研修も積極的に活用して、授業力の向上を目指して継続的に努力する。 ・大学進学を前提とした基礎学力の定着に、教科担当・クラス担任・学年で協力して対応する。特に、東海大学への内部進学上重要な学園基礎学力定着度試験において効果的な対策をさらに工夫を進める。そして中間層の生徒の学力をつけることが次なる課題と考える。 ・進路内定後も「学び続ける生徒」となるよう、学ぶ内容に終始せず、学ぶ意義についても語りかける授業を心掛ける。 ・ここ数年、評価が3.3と横ばいの数字である。少しでも評価が向上するよう教員が一丸となって取り組む。
クラス指導(生徒指導主任)	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・欠席のないクラスづくり ・いじめのない、お互いが高めあえるクラスづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任は生徒間の好ましい人間関係の構築に努め、いじめのないクラスづくりができた。 ・担任は個々の生徒にクラス・学校の一員としての自覚を促し、その役割を十分に果たさせることができた。 ・各学年が遅刻や欠席の少ないクラスづくりに努め、遅刻や欠席は特定な生徒だけになりつつある。 ・昨年同様、学年が低い程、生徒は学校が楽しいと評価している。 ・満足度など、生徒、教員共々、改革の手応えを感じているらしく、昨年度よりも高い評価を得られた。 	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々に暖かく見守られ、歓迎される中・高生であるように、意識付けと指導を日常的に行う。 ・担任と教科担当は生徒の学習環境をきちんと管理すると同時に頭髪、服装の指導も常に心がける。 ・公共の場でも常に生徒が本校の一員であることを自覚した行動ができるように指導を行う。
生活指導(生徒指導主任)	社会ルールとマナー指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度も生徒部として、「挨拶、礼儀、身だしなみ、美しい環境づくり」を目指し活動した結果、生徒に浸透してきていると感じる。 ・登下校のマナーについて、近隣からの苦情も減少した。しかし、自転車事故については、なくならない現状であった。 ・教職員は校内の設備、整備の指導を意識して行った。いつでも、どこでも常に美しい環境を今後とも継続していく必要がある。 ・生徒の頭髪、服装に関しては、生徒の自覚を促すと同時に全教員で同じ視線で徹底していく必要がある。 	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々に「挨拶、礼儀、身だしなみ、美しい環境づくり」を目標に教育活動を実行していることを認識していただけるよう、日常的に生徒指導をしていく。 ・担任と教科担当は生徒の学習環境をきちんと管理すると同時に、頭髪、服装の指導にも常に心がける。 ・登下校のマナーについて、引き続き指導を強化しながら、自転車事故等を起こさないように自覚した行動ができるように指導を行う。
進路指導(進路指導主任)	キャリア意識や適性からの進路発見と主体的な進路準備	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の段階に応じた内容を盛り込んで進路説明会やガイダンスの開催、また外部の業者による校内でのガイダンスの実施、さらに外部開催のイベントへの参加など多岐にわたる指導を実施できた。 ・特に、東海大学への進学の特長を強く押し出した指導を説明会、および担任を通じ各クラスにおいて実施した。 ・小論文や、自己推薦書、志望理由書、面接など、それぞれの進路(進学、就職)での試験にあたり、個別指導を念入りに行った。 ・学年フロアーや教室の掲示において、進路に係る情報を随時提供し、意識の向上を促し、準備が周到にできるように喚起した。 	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・指定校推薦や専門学校へと安易な進路選択に流れていかないよう、早めの意識喚起と実際の活動を実施する。同時に、東海大学進学の特長をさらに強く提示していく。 ・就職希望者に対しては、社会に出ることの厳しさ等を知ってもらうために、インターシップのようなイベントを実施する。 ・進路やキャリアに対する意識を常にもたせるような継続的な活動を計画する。 ・基礎学力の重要性を知らしめ、進路指導部として学力向上につながるようなアプローチを試みたい。 ・「進路選択」というよりも、「キャリア」を意識した指導をしていきたい。
(生徒別主活動)	生徒会活動と部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への取り組みに対する評価は、生徒、保護者、教職員ともに共通して高い。 ・委員会活動や係の仕事への取り組みを通じた指導に若干の不足があった。 	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強と部活動の両立、部活動より勉強、と言いながらも学習への取り組みはまだ十分でなく大きな課題である
研究・研修(研究主任)	公開授業の定期化及び教員研修を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度はコロナ禍のため保護者向け公開授業を中止した。 ・教員の授業力向上を目的に、学期末ごと授業評価アンケート実施(生徒対象)。その授業評価アンケートの結果からベストティーチャーを決定した。アンケート上位者の授業見学を行い、授業力向上に努めた。 ・教員研修の実施。①授業見学(チェックシートを使って、担当者にフィードバック)②道徳教育への取り組み③学校教育にSDGsを導入。 ・総合探求の活性化を目的に、「高校現代文明論」の公開授業で他の付属高校と「キャリア教育」について研修会を行う予定だったが、コロナ禍のために中止した。 ・コロナ禍ではあるが、学校報を月1回発行(6月以降)することで、生徒・保護者へ校内の様子を伝えることができた。また中等部生の活躍を紹介する「羽ばたき」を発行。PTA広報誌「海湧」の制作では広報委員にご尽力いただいた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力向上を目標に、授業見学やICTを利用した教員対象研修サイト「Find! アクティブ・ラーナース」を積極的に利用して、定期的な教員研修を実施することで、教員の更なるスキルアップを目指す。 ・総合学習のあり方について、本校では「現代文明論」の果たす役割が大きい。道徳教育やSDGsなど社会問題と関連付けて考えるなどさらに内容の充実を図る。 ・「シズクリ」による探究活動を導入して、総合探求の充実を図る。 ・ボランティア活動及び防災教育など、地域に関わった取り組みを積極的に展開していく。
その他	生活習慣改善プロジェクト実施			